

独創的な自転車への挑戦「ペダーソン自転車」 (1903年)

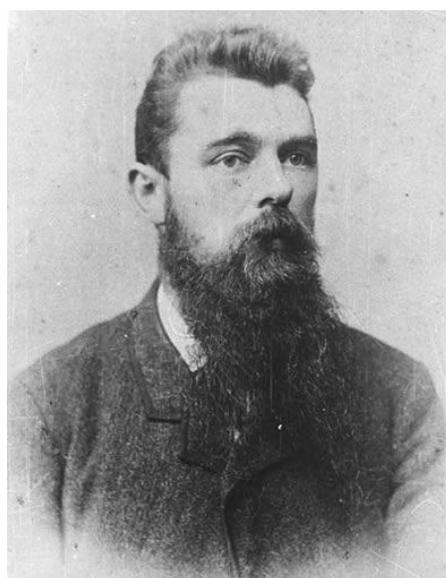


19世紀の末、自転車が普及し始めた欧米では自転車産業が栄華を極めていました。特にイギリスは成長率が前年比15～30%の増加という伸びを続けました。こうした背景の下で、より安全で簡単に乗ることができる車体形式の開発が試みられました。

イギリス在住のデンマーク人ペダーソンが開発した自転車は内装式3段変速装置を持ち、車体全体が細い2本の丸棒で構成され、サドルはバネを利用して吊るしている状態で取り付けられています。一目で他の自転車とは異なる形式で、乗りにくい印象を与えます。しかし、各丸棒はバランスよく配置され、衝撃に対する抵抗力が大きく、緩衝装置としての役割も果たしています。このような特徴を持つことから1893年には特許を取得しています。

当初は限定品として製作は少数でしたが、後に女性用も登場し「軽い」「乗りやすい」「堅牢」な自転車として量産されるようになり、1899年に南アフリカで起きたボーア戦争でも使用されました。

しかし、20世紀に入ると、車体構造の簡素化および軽量化への対処並びに合理的な強度確保の目的からダイヤモンド形と呼ばれる現在でも警察官が使っている形式が主流になると、車体形式の開発はしばらく遠のいてしまいました。



マイケル・ペダーソン (1855年～1929年)

デンマーク人であるが、1889年にイギリス南部のダーズリーへ移り、そこで自転車を26年間で3万台製作した (出典：www.pedersenbicycle.dk/)



ダズリー・ペダーソン自転車のポスター

女性は神を表し、その手に持つペダーソン自転車は軽やかで高級な自転車であることをアピールしたポスターともいえる



サイクリングとペダーソン自転車

ペダーソン自転車でサイクリングを楽しんでいるイラストであるが、開発者のペダーソンはサイクリストでもあった（出典：www.pedersenbicycle.dk/）